

「戦争で取り返す？」

2019年05月17日

日本維新の会の丸山穂高衆院議員が、北方領土へのビザなし交流訪問団に参加し、国後島を訪れた際、訪問団長の犬塚小弥太氏（元島民）に、「戦争でこの島を取り返すのは賛成ですか、反対ですか」と聞いた。犬塚氏は返事に窮し「戦争なんて言葉は使いたくない」と答えると、丸山議員は「戦争をしないと、どうしようもない」と答えたという。驚きというか、空いた口が塞がらないという思いがする。

大阪を地盤とした維新の会は、安倍政権の憲法改定に同調している。丸山議員は、安保法制で、もはや、戦争する国になっていると思っているのであろうか。憲法9条1項は、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と、武力による紛争解決はしないと謳っている。国会議員ともあろう人が、この条文を知らないはずがない。平和主義は、大きな犠牲を強いた先の大戦の反省から生み出されたものである。北方領土は日本固有の領土といえども、戦争という強硬な手段ではなく、あくまで、平和的な外交手段で解決すべきである。戦争で解決するなどという発言は許されることではない。

また、99条では、「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ」と、国会議員は憲法を守る責務を負っていると謳っている。丸山議員は、この条文も知らないのであろうか。99条に関しては、安倍首相も国会議員でありながら、これを守らず、改定を進めることは憲法違反に当たる。

丸山議員の発言に対し、与野党を問わず、怒りの声が上がっている。北方領土の問題解決のために働いてきた人々や元村民だった人々は、信頼関係を根こそぎ壊されたと怒り心頭である。維新の会もさすがに、除名処分にした。皆が議員辞職を当然としているが、本人は辞職する気はなく、議員活動を継続する考えであるという。こんな人を候補者に立てた維新の会、また、彼に投票した人々は恥じ入るべきである。

北方領土に関して、4島一括返還が国是であった。しかし、島には既に、ロシア人が根を下ろし、生活している。4島一括返還などは、夢物語であろう。最近、2島返還に変えているようだが、返還した島に、米軍の基地が作られることをロシアは恐れている。日本は安全保障に関しては、自国のことでありながら、自分たちで計画、実行できないことをロシアは見抜いている。日本は、自国を自分で治めきれない体たらくの国なのである。

「東京新聞」の「本音のコラム」欄に、齋藤美奈子氏が、丸山議員の発言に関し、彼女らしい皮肉を込めた文章を寄稿している。ロシアと戦争するのか。勝てると思っているのか。1984年生まれの丸山議員は、戦争で領土を争う戦略ゲームと現実との区別がつかなくなっているのかも知れない。リアルな政治の現場でも、非現実的な事態はいくらでも見られる。原子力規制委員会は、テロ対策施設が建設できなければ設置期限の延長は認めないとした。テロ対策には一社あたり1兆円近くかかるという。一度延長しても工期には間に合わない。原発に固執する政府の方針が、既に非現実的である。また、辺野古の新基地建設に関しても、沖縄県の試算では、軟弱地盤の改良を含めた工期は13年（計画では5年）、工費は約2兆4千億円（当初計画の約10倍）かかるという。「国がデタラメなことをやっているんだもの。若手議員が現実とゲームを混同しても不思議ではない。」齋藤氏が指摘するように現実が見えない、また、見ようとしぬ政治が横行しているのではないか。